

～交流を通して～

四條畷くすのき小学校 秋山 友樹

1 はじめに

四條畷市立くすのき小学校は創立 8 年目で児童数 528 名、そのうち支援学級に在籍しているのは 23 名である。1 年生 5 名（男子 4 名 女子 1 名）2 年生 3 名（男子 2 名 女子 1 名）3 年生 5 名（男子 4 名 女子 1 名）4 年生 3 名（男子 1 名 女子 2 名）5 年生 2 名（男子 1 名 女子 1 名）6 年生 5 名（男子 4 名 女子 1 名）各学年に 1 名は在籍者がいるので支援学級（以下、ひまわり学級とする）では、毎日 2 時間目に「朝の会」として時間をとり、歌や作文発表、スピーチなどを通してひまわり学級に在籍している児童の交流を図っている。その中で自己肯定感を高め、子ども同士のかかわりで成長できることをめざしている。

2 目的と方法 ～交流の輪～

ひまわり学級では「朝の会」を持つことにより、各学年の児童と交流する時間を持つことができ、その中で子ども同士のかかわりでの成長をめざしている。実際、朝の会では、高学年の児童が低学年の児童をリードしたり、低学年の児童に「お話聞こうね」と声をかけたりするなど、成長している姿が多く見られる。

通常の学級の児童に対しては、ひまわり学級児童紹介や具体的な学習内容の説明、教室設備の紹介、車いす体験の実施、学校行事や学年行事に参加し、ひまわり学級でのがんばりや取組を広く知らせる活動をしている。

児童の感想はさまざまに「とても勉強になった」「ひまわり学級のお友だちがどんな勉強をしているかわかった」などたくさんの感想をだしてくれ、通常の学級の児童はひまわり学級の児童を広く受け入れてくれた。さまざまな場面で声をかけ、手助けをしてくれるとても優しい学校である。

学校行事や学年行事を通し児童間での交流の輪はとても広がっている。その一方で保護者同士の交流はなかなか図れない。そこで、じゃがいもの調理実習を通して保護者同士の交流を考えた。交流を考えた理由は、学校周辺の地域に古くから住む人と、近年新しく引っ越してきた人がおり、地域が変わりつつあり、近所付き合いも希薄になり、気軽に自分の子どもに関する相談をする存在が少ないからである。また相談する場所も学校の教職員や、地域の支援者センターなど数が限られている。そこで保護者同士をつなぐことにより、気軽な相

談ができるのではないかと考えたからである。

(1) 植物の栽培から

植物や小動物に接することは、情緒の安定につながり、自然の摂理を知り、自分たちの生活を振り返る大切な学習である。

年齢や発達段階に関係なく、みんなで取り組むことができるので、効果的な学習である。

本校のひまわり学級の畑では毎年さまざまな野菜や果物を植え、自然と触れあう機会が多い。また、ザクロやミカン、カキ、ビワ、どんぐりなど自然の味わいもあり、とても豊かである。

ひまわり学級の学級園は比較的広く、さまざまな植物を植えることができる。

今年度は買い物学習の時に園芸屋さんで、きゅうり、トマト、ピーマンの苗を児童が買い、畑を耕し植える作業をした。

じゃがいもは昨年度の秋に種いもを植えた。簡単に栽培できることから多くの学校でも栽培されている。児童が、水をまき雑草を抜き、蓋に穴を開けたペットボトルの中に肥料水入れ、ゆっくりと栄養がまわるように工夫をして栽培した。畑に水をやったり肥料をあたえたり収穫まで児童の力で大きく育てた。

そして、ひまわり学級全員の手で畑から取り出したじゃがいもを使い、参観日に調理実習をしたいと考えた。

(2) 取組

じゃがいもを使った調理実習

家庭科室での調理実習をするにあたり次の準備をした。

・材料

じゃがいも 塩コショウ サラダ油 水

・調理器具

包丁 まな板 ピーラー ボール 菜箸 平皿

サランラップ フライパン

電子レンジ

- ・調理をするときの服装
エプロン 三角巾 マスク

- ・その他 テレビ パソコン

調理にあたり

ひまわり学級の児童をそれぞれ 3 班に分け調理ができるようにした。児童が他の児童を見る環境を整え、パソコンの画面をテレビに映し調理の手順がわかるように工夫した。

① 手を洗う



② ジャガイモを洗う



③ ジャガイモのかわをピーラーでむく



④ ほうちょうできる



⑤



⑥



⑦



⑧おさらへのせる



⑨ラップをかける



⑩でんしレンジに入れる



⑪4ふんあたためる



⑫あたためたら、とりだす



⑬ラップをはずす



⑭フライパンに
あぶらをいれる



⑮フライパンでいためる



⑯しお、コショウであじ
をつける



⑰完成



調理方法

じゃがいもの皮をむき、平皿にのせ、電子レンジで4分蒸す。その後フライパンに油をひき、炒めて塩コショウで味をつける。



3 結果と考察 ～交流を通して～

じゃがいもの調理実習を参観日と重ねることにより、保護者の方に児童が活発に活動している姿を見てもらうことができた。

ひまわり学級の児童たちは、自分たちで育てたじゃがいもを収穫を祝う、祝うことができて、とてもうれしそうにしていた。

異なる学年の子ども同士で作業することにより、子ども同士が理解を深めることができた。

ひまわり学級の担任も、児童との関係が深まり、より児童のことを理解することができた。また、保護者同士が子どもの姿を見ながら何気ない日常会話をする場面が多く見られた。例えば、家でのトイレトレーニングや宿題の話、中学校の進路について地元の中学か支援学校かの相談をしていた。そのような普段できない話を相談することで、保護者同士のつながりが深まっていたように思う。

これからも子どもたちや保護者と一緒に交流できる場を持っていきたい。